

台北覚書

2013年4月27～30日、台湾の首都・台北市でNGO主催による「第8回民族青年リーダー研究学習会議」に南モンゴルから8人が出席した。出席したモンゴル人たちは今回の会議で故郷・南モンゴルの現在と未来に関して幅広く意見を交換し、あらゆる反体制勢力が今後、国際レベルで活動を行う際いかに協力していくか等について覚書に署名した。

- (1) 今後、重要な活動を実施する際には、相互に報告し、意見を交換する。
換言すれば、在外反体制勢力があらゆる活動について明確にするという原則を守ることに私たちは合意した。
- (2) 重要な用語を統一する、例えば、故郷の名称をモンゴル語で“Uvur Mongol (ウブル・モンゴル)”、漢語で「南蒙古」、英語で“Southern Mongolia”、日本語で「南モンゴル」とすることに私たちは合意した。
- (3) 南モンゴルに関する情報をお互い常時交換していくことに私たちは合意した。

署名者：

席海明 (テムチェルト)、エンフバト、ホウイスガルト、チョロー、
ドガルジャウ、バヤル、チェチェグ、アルタンバガナ

2013年4月30日
於 台湾・台北市